

オンライン資格確認トラブル



調査結果について説明する、東京歯科保険医協会の馬場安彦副会長=8日、東京都新宿区

医療機関 受付業務増えた

東京歯科保険医協会調査

東京歯科保険医協会は、
全国医療機関に対し行った
患者が加入している医療保
険を確認するオンライン資
格確認のトラブル実態調査
第2弾の集計結果を公表
(8日)しました。調査は、
7月31日から8月31日まで
に実施したもの。マイナン
バーカード保険証の利用で
受付業務が増えたと回答し
たのは95医療機関(回答総
数102)。増えた業務内

容として、「患者への説明」
が84・2%、「機器の操作
補助」は81・1%でした。

マイナ保険証の利用によ
り、患者への説明や機器の
操作補助など、医療機関の
負担が続いている実態が明
らかになりました。

また今回の調査でも、70
歳以上の高齢者でオンライン
資格確認で表示される内
容と健康保険証の負担割合
が異なる事例がありました。
なかには、3割負担か
2割負担かが明確でなく、
診療報酬明細書(レセプ
ト)を3度こわたり再請求
した事例もありました。

厚生労働省は8月から、
マイナ保険証利用で資格確
認ができない場合に患者に
対し「資格申立書」を記載
させる新たな対応を示して
います。これに対しては、

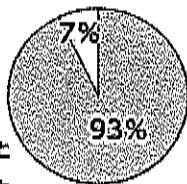
79・2%の医療機関が「健
康保険証の持参で十分」と
考えていました。また、「受けの対応が増える」は
68・3%、「患者とのトラ
ブルを懸念」との回答も52
%ありました。

システム運用上のトラブル
に対し、「患者がマイナ
保険証について理解してい
ないのを医療機関が説明す
るのはおかしい」などの声
が寄せられました。

同調査では、回答した医
療機関のうち、93%が紙の
健康保険証を残すべきだと
考えていました。

患者への説明や機器操作補助

マイナ保険証の患者対応で
受付業務は増えたか?



(東京歯科保険医協会の資料から作成)